

五期俳句会第百七十七回五月三日

今日は憲法記念日といってもあまり関係なく、端午の節句に近いので、蔵本さんが、柏餅を持ってきてくれた。習字の始まるまえに、美味しく頂く。

藤椅子の姑遠い日の風の音
今井由紀子

藤棚や雨の気配に猫も来ず
松浦武子

花散らし雨を眺めて紅茶飲む
浅香さとみ

母の日や亡母と歩きし谷町筋
久貝貞子

疎水より流れる音や春息吹
塩田亘子

寺町に似合う春雨宵の鐘
塩田亘子

シャボン玉上手に吹けて淋しさつものる

浅香さとみ

夏めきて少女の髪の軽やかに
今井由紀子

落葉掃き夕風吹きてもくあみに
久貝貞子

五月雨や旅情誘う常夜灯
今井由紀子

初つばめ去年の軒端に戻り来る
塩田亘子

裏庭の蟻の巣かくす春落葉

久貝貞子

うっすらと紅を含みし白牡丹

松浦武子

豆の花子等ともん白遊ぶごと

今井由紀子

春回向僧まく散華堂に舞ふ

塩田亘子

今回は選外が多く句数がすくないが。選外にも佳句があり一応決まりによりこの様になった。季候が変動多く致し方ない。